

(様式第10)

高大医医第7号
令和2年10月5日

厚生労働大臣 殿

(開設者)
国立大学法人高知大学長 櫻井 克年

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
1呼吸器内科、4腎臓内科、6血液内科、7内分泌内科、8代謝内科、9感染症内科、10アレルギー疾患内科またはアレルギー科、11リウマチ科については「内科」で提供 5神経内科については、「脳神経内科」で提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 8小児外科	
診療実績 8小児外科については「外科」で提供	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制のもとに歯科診療を行っている。現在、常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師6名が従事しており、令和元年度は1日あたり外来患者64.8人、入院患者10.1人の歯科診療を行っている。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2頭頸部外科 3リハビリテーション科 4病理診断科 5脳神経内科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	床	床	床	583床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	174人	169人	321.4人	看 護 補 助 者	40人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	6人	8.2人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技師	55人
薬 剤 師	31人	0人	31人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	14人	2人	16人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	567人	82人	643.6人	臨 床 工 学 士	20人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	1人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	0人	5人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	170人
管理栄養士	8人	3人	11人	診 療 放 射 線 技 師	32人	そ の 他 の 職 員	52人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	52人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	25人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	9人	放 射 線 科 専 門 医	13人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	10人
産 婦 人 科 専 門 医	11人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	208人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (執印 太郎) 任命年月日 平成30年4月1日

医療安全管理委員会委員 平成30年4月1日～

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	449.9人	10.1人	460.0人
1日当たり平均外来患者数	985.0人	64.8人	1049.8人
1日当たり平均調剤数	702剤		
必要医師数	115人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	17人		
必要（准）看護師数	282人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	254.442 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤管理室					
化学検査室	582 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査			
細菌検査室	142 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	226 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	54 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研究室	5002 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講義室	283 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	264人
図書室	974 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	13万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	77.1%	逆紹介率	71.3%
算出根拠	A：紹介患者の数			10,528人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,786人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,131人
	D：初診の患者の数			15,130人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター施設長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
井上 正典	公益財団法人 高知県看護協会 事務長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 本院HPに公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	51
2	筋萎縮性側索硬化症	23	57	特発性拡張型心筋症	26
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	23	60	再生不良性貧血	8
6	パーキンソン病	50	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	15
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	46	66	IgA腎症	41
12	先天性筋無力症候群	3	67	多発性嚢胞腎	34
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	23	68	黄色靑帯骨化症	14
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	1	69	後縦靑帯骨化症	62
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	29
17	多系統萎縮症	23	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	44	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライゾゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	18	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	32
24	亜急性性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	23	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	60
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	11
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	8	90	網膜色素変性症	8
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	19
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	5	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	33
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	43
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	2	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	144	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	91	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	98	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	29	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	20	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	9	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	
	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
11	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	1
	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	
2	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	
3	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	
	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	
	アイザックス症候群	169	メンケス病	
	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	
	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	3
	脳表ヘモジデリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	
1	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	
	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	
	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	
	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	
5	前頭側頭葉変性症	177	有馬症候群	
	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	
	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	
	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	
	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	
	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	
	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	
	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	
	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	
	片側巨脳症	186	ロスムンド・トムソン症候群	
	限局性皮膚異形成	187	歌舞伎症候群	
	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	
	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	
	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	
	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	
	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	
	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	
	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	
	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	
	大田原症候群	196	ヤング・シンブソン症候群	
	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	
	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	
	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	
	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
1	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	
	PCDH19関連症候群	202	スミス・マガニス症候群	
	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	
	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	
	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	
	レット症候群	206	脆弱X症候群	
	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	
2	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	
	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	
1	先天性魚鱗癬	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	34	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性降炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	12
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
307	カナバン病	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
		331	特発性多中心性キャッスルマン病	
		332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
		333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2(HCU)(SCU)
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2イ・4イ
・特定機能病院入院基本料(一般7:1)	・入退院支援加算1(入院時支援加算・総合機能評価加算・地域連携診療計画加算)
・特定機能病院入院基本料(精神13:1 看護補助2)	・入退院支援加算3
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算2イ
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料1及び(早期離床・リハビリテーション加算)
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算(12対1口)	・新生児特定集中治療室管理料1
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・入院時食事療養/生活療養(I)
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1及び(地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇式注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・糖尿病合併症管理料	・精密触覚機能検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来緩和ケア管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・婦人科特定疾患治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・院内トリアージ実施料	・検体検査管理加算(IV)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・胎児心エコー法
・開放型病院共同指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん治療連携計画策定料	・ヘッドアップティルト試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1・2	・脳波検査判断料1
・薬剤管理指導料	・単線維筋電図
・医療機器安全管理料1・2	・神経学的検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・補聴器適合検査
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・画像診断管理加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・画像診断管理加算2	・レーザー機器加算
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・硬膜外自家血注入
・CT撮影及びMRI撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算1
・心臓MRI撮影加算	・磁気による膀胱等刺激法
・乳房MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・手術時歯根面レーザー応用加算
・外来化学療法加算1	・CAD/CAM冠
・連携充実加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・無菌製剤処理料	・センチネルリンパ節加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・組織拡張器による再建手術(乳房「再建手術」の場合に限る)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・運動器リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法
・がん患者リハビリテーション料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・リンパ浮腫複合的治療料	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・集団コミュニケーション療法料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・角膜移植術(内皮移植加算)
・精神科作業療法	・羊膜移植術
・認知療法・認知行動療法1	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術[プレートのあるもの])
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・医療保護入院等診療料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・口腔粘膜処置	・人工中耳植込術
・口腔粘膜血管腫凝固術	・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術、人工中耳用材料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を行うものに限る)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科診療に係るもの)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科診療に係るもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・膀胱水圧拡張術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下仙骨陰固定術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者の患者に対して行うものに限る。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者の患者に対して行うものに限る。)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・輸血管理料 I
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・輸血適正使用加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・経皮的下肢動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下胃切除術及び噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯周組織再生誘導手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算(全乳房)(前立腺)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料 (顎変形症[顎離断等の手術を必要とするものに限る]の 手術前後における歯科矯正に係わるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定	・
・EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	・
・前眼部三次元画像解析	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
剖検の状況	剖検症例数 14例 / 剖検率 8.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
虚弱高齢者のための児童、生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	永野 靖典	リハビリテーション部	400,000	補 委 黒潮町
治験の実施に関する研究【5ALA】	並川 努	外科(一)	849,999	補 委 公益社団法人日本医師会
悪性胸膜中皮腫に対するAdSOCS3を用いた新規遺伝子治療の医師主導治験に関する研究	仲 哲治	免疫難病センター	100,100,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂質代謝を標的とした新規癌治療法の開発	仲 哲治	免疫難病センター	45,500,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膵癌予後予測因子の実用化研究	谷内 恵介	内視鏡診療部	3,780,000	補 委 大阪大学
NASH発症におけるRAGE発現亢進のメカニズム解明と肝線維化マーカー開発	廣瀬 享	消化器内科学	2,080,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
自然免疫反応からみた1型自己免疫性膵炎の病態解明	内田 一茂	消化器内科学	1,560,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
膵癌細胞の浸潤・転移に関わるメッセンジャーRNAを標的としたRNA干渉剤の開発	谷内 恵介	内視鏡診療部	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
新規サイトカインIL-36に着目した急性腎障害の新たな治療戦略と診断法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病(CKD)に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介し	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	900,000	補 委 島根大学
ノンコーディングRNAとエクソソーム機能解析から腎臓病の新規治療法を開発する	堀野 太郎	内分泌代謝・腎臓内科学	1,950,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
近位尿管代謝異常と代謝障害センサーの役割に着目した糖尿病性腎症進展の機序解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
抗肥満ホルモンFGF21の中樞神経を介した作用機序の解明	西山 充	内分泌代謝・腎臓内科学	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
地域集積性サイログロブリン遺伝子異常症の臨床像解析と甲状腺癌発症機序の解明	中山 修一	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	400,000	補 委 富山県衛生研究所
KL-6発現マウスを用いた膠原病肺モデルにおける新規バイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	1,690,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
B細胞リンパ腫における新しいCD20陰性化機序の解明	谷口 亜裕子	呼吸器・アレルギー内科学	2,080,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
造血器腫瘍のBCL-2特性に基づくp53依存+非依存性ミトコンドリア死の分子誘導	小島 研介	血液内科学	1,820,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
特発性心筋症に関する調査研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	350,000	補 委 九州大学
新しい診断戦略を用いた老人性全身性アミロイドーシスの多施設登録研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	520,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器内科学	910,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
深部脳電気刺激を用いた人工圧受容器反射システムの開発	弘田 隆省	老年病・循環器内科学	2,080,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	藤本 新平	脳神経内科学	500,000	補 委 高知大学
皮膚マイクロバイオームの変動とアトピー性皮膚炎との関連性の解明	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,300,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

小計24件

幼少期の摂食問題と精神神経発達障害:スウェーデンと日本に於けるコホート調査	藤枝 幹也	小児思春期医学	3,770,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
突発性正常圧水頭症の診療ガイドライン作成に関する研究	敷井 裕光	神経精神科学	200,000	補委	順天堂大学
3大認知症の潜在性併存診断とアミロイド排除による正常圧水頭症の長期予後改善研究	敷井 裕光	神経精神科学	4,550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レビー小体型認知症の神経基盤に着目した運動能力評価方法の確立	上村 直人	神経精神科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
室内音環境と聴覚情報処理特性が子育て家族のメンタルヘルスに及ぼす影響	高橋 秀俊	神経精神科学	7,410,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬に併発するアトピー性皮膚炎・湿疹の病態解明	中島 英貴	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬発症におけるランゲルハンス細胞の役割:遊走および抗原提示についての検討	中島 喜美子	皮膚科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
表皮角化細胞の増殖分化を制御する核タンパク質Ahedの分子機能の解明	高石 樹朗	皮膚科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
色素細胞に対するZEB2の役割	寺石 美香	皮膚科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
全身性自己免疫疾患マウスを用いた強皮症発症メカニズムの解析	山本 真有子	皮膚科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝性多毛症由来毛乳頭細胞を用いた新たな上皮間葉系クロストークの解析	大湖 健太郎	皮膚科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
皮膚炎症と発癌:表皮Regnase-1の関与についての研究	佐野 栄紀	皮膚科学	4,290,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮筋腫に対する子宮腔内温水還流凍結療法確立	山上 卓士	放射線医学	0	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃静脈瘤に対する最適な塞栓硬化物質としての新規開発塞栓物質NLEの可能性	南口 博紀	放射線医学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺悪性腫瘍に対する肺凍結療法の新たな開発応用	梶原 賢司	放射線医学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工臓腑は外科的糖尿病の糖毒性を解消できるか?	花崎 和弘	外科学(外科1)	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
卵巣癌進展におけるLSRの病態生理学的機能の解明	平松 宏祐	外科学(外科1)	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
胃癌の内視鏡的粘膜切除における5-ALAを用いた革新的光学的診断の開発応用	並川 努	外科学(外科1)	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3Dエコーガイド下心拍動手術器械の開発	渡橋 和政	外科学(外科2)	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3次元画像投影と近赤外線マッピングによる新規イメージガイド手術支援システムの開発	穴山 貴嗣	呼吸器外科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
全身麻酔による脳内神経炎症機構の解明-高齢者に最適な麻酔法の確立をめざして-	河野 崇	麻酔・蘇生学	4,290,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
加齢に関連する痛みの慢性化機序の解明-脳由来神経栄養因子の役割とその治療応用-	横山 正尚	麻酔・蘇生学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PGC-1αおよびmicroRNAを用いた術後認知機能障害に対する新規治療戦略	立岩 浩規	麻酔・蘇生学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
術後せん妄に対する新規治療としての神経ステロイドの有効性	青山 文	麻酔・蘇生学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
高齢敗血症ラットを用いた回復後認知機能低下の研究	西垣 厚	麻酔・蘇生学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工関節術後遷延痛モデルの確立と酸感知機構を標的とした治療法の開発	池内 昌彦	整形外科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を	池内 昌彦	整形外科	200,000	補委	福島県立医科大学
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	池内 昌彦	整形外科	12,700,000	補委	厚生労働省
変形性関節症のフレアモデルにおけるマスト細胞制御の効果	團 隼兵	整形外科	310,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計29件

医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	泉 仁	整形外科学	350,000	補委	獨協医科大学
ジャイロセンサ内臓タブレット端末を用いた簡易型人工股関節手術支援システムの開発	岡上 裕介	整形外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
眼組織特異的マスト細胞の分化機構の解明および創傷治癒への関与	福田 憲	眼科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
嚥下運動の“見える化”による嚥下障害の病態評価と治療への応用	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌および食道癌患者におけるアルコール分解酵素の遺伝子多型解析	吉田 真夏	耳鼻咽喉科学	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
fMRIによる痙攣性発声障害の脳内イメージング解析と治療法開発への展開	弘瀬 かほり	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
AQP11からみた内耳水代謝の解明と新たなメニエール病治療戦略の開発	小林 泰輔	耳鼻咽喉科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症患者における嚥下障害の実態調査および機能評価に基づいた治療戦略	長尾 明日香	耳鼻咽喉科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
コンパクトな高速度カメラによる声帯振動の観察と臨床応用	梶山 泰平	耳鼻咽喉科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
悪性脳腫瘍におけるRNAメチル化の制御機構とその役割の解明	上羽 哲也	脳神経外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
尿路上皮癌増殖因子ラミニン γ 2測定による腎盂尿管癌の高感度腫瘍マーカー開発と応用	執印 太郎	泌尿器科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
VHL病の腎がん発生におけるセカンドヒット遺伝子変異の探索	辛島 尚	泌尿器科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
前立腺癌における新規病原体(pathogen)の探索	蘆田 真吾	泌尿器科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
低温大気圧プラズマの直接照射法による新たな膀胱癌治療法	福原 秀雄	泌尿器科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細胞老化による口腔癌の抗がん剤耐性獲得機序の解明	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規診断・治療法の開発に向けた口腔扁平上皮癌細胞由来エクソソームの解析	山本 哲也	歯科口腔外科	2,032,374	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規診断・治療法の開発に向けた口腔扁平上皮癌細胞由来エクソソームの解析	山本 哲也	歯科口腔外科	4,810,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌由来エクソソームに発現されるPD-L1の抗腫瘍免疫に及ぼす影響	仙頭 慎哉	歯科口腔外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
薬剤感受性・耐性菌による誤嚥性肺炎に対するバクテリオファージ療法の創出	北村 直也	歯科口腔外科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
幼若血小板分画検査による動脈硬化増悪の評価	上岡 樹生	検査部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
透析低血圧を防ぐ非侵襲的血圧制御装置の開発	山崎 文靖	検査部	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
細菌抗原の結合した血小板による複合体形成が誘発する疾患メカニズムの解明	森本 徳仁	検査部	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
外来経口抗菌薬の適正使用へ向けた地域医療連携体制の構築	八木 祐助	薬剤部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
院内製剤セレンの新規剤型の開発と品質評価	伊東 睦弘	薬剤部	460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
痛み由来の神経学的筋力抑制に対抗する新規治療法の確立	小田 翔太	リハビリテーション部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経筋電気刺激を併用した嚥下訓練の有効性とメカニズムに関する筋電図学的研究	中平 真矢	リハビリテーション部	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳性麻痺児における視覚的効果を利用した匍匐動作誘発の提案	細田 里南	リハビリテーション部	0	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規炎症分子LRGによるTGF β シグナル調整機構の解明とリウマチ疾患の治療法開発	仲 哲治	免疫難病センター	4,810,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症性腸疾患の新規バイオマーカーLRGの実臨床への応用	藤本 穰	免疫難病センター	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計29件

癌幹細胞におけるGlypican-1の機能解析と抗体療法への応用	世良田 聡	免疫難病センター	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
小腸粘膜障害予想バイオマーカーを用いた抗癌剤による消化管毒性新規予防法の確立	小林 道也	がん治療センター	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

小計2件
合計84件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Keisuke Taniuchi, Toshio Yawata, Makiko Tsuboi, 他	内視鏡診療部	Efficient delivery of small interfering RNAs targeting particular mRNAs into pancreatic cancer cells inhibits invasiveness and metastasis of pancreatic tumors	Oncotarget. 2019 Apr 23;10(30):2869-2886.	Original Article
2	Keisuke Taniuchi, Mutsuo Furihata, Seiji Naganuma, 他	内視鏡診療部	Overexpression of PODXL/ITGB1 and BCL7B/ITGB1 accurately predicts unfavorable prognosis compared to the TNM staging system in postoperative pancreatic cancer patients	PLoS One. 2019 Jun 5;14(6):e0217920.	Original Article
3	Taro Horino, Osamu Ichii, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	IgA-Proliferative Glomerulonephritis with Monoclonal Immunoglobulin Deposits	Am J Med. 2019 Apr;132(4):e542-e545.	Case report
4	Taro Horino, Osamu Ichii, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	Cotton Wool Sign in Paget Disease of Bone	Intern Med. 2019 Jun 15;58(12):1809-1810.	Case report
5	Taro Horino, Kazu Hamada-Ode, Osamu Ichii, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Overlapping Syndrome of Systemic Scleroderma and Cryoglobulinemic Vasculitis	Am J Med. 2019 Jun;132(6):e589-e590.	Case report
6	Tomohiro Eguchi, Kosuke Inoue, Taro Horino, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Intestinal Spirochetosis Caused by Brachyspira pilosicoli in a Systemic Lupus Erythematosus Patient	J Clin Rheumatol. 2019 Dec;25(8):e142-e145.	Case report
7	Takafumi Taguchi, Hiroyuki Kitagawa	内科(内分泌代謝・腎臓)	Fish Bone Perforation	N Engl J Med. 2019 Aug 22;381(8):762.	Case report
8	T Horino, S Inotani, T Matsumoto, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Macromolecular creatine kinase Type 1 in a patient with anti-aminoacyl-tRNA synthetase autoantibody-related dermatomyositis	QJM. 2020 Mar 1;113(3):201-202.	Case report
9	Kazu Hamada-Ode, Yoshinori Taniguchi, Yoshiko Shimamura, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Serum dickkopf-related protein 1 and sclerostin may predict the progression of chronic kidney disease in Japanese patients	Nephrol Dial Transplant. 2019 Aug 1;34(8):1426-1427.	Original Article
10	Hirofumi Nishikawa, Yoshinori Taniguchi	内科(内分泌代謝・腎臓)	Phaeohyphomycosis Due to Exophiala oligosperma in an Immunocompromised Host	J Rheumatol. 2019 Jun;46(6):652.	Case report

小計10件

11	Shimpei Fujimoto	内科(内分泌代謝・腎臓)	Novel mechanism of impaired metabolism-secretion coupling in β -cells: Loss of cytosolic adenosine triphosphate by leakage	J Diabetes Investig. 2019 Nov;10(6):1401-1404.	Others
12	Kazuki Anabuki, Shintaro Miyamoto, Shin Akita, 他	内科(呼吸器)	Sex-specific differences in the association between birth weight and lung volume in Japanese young adults	Respir Investig. 2019 Nov;57(6):598-604.	Others
13	Masato Takaoka, Hiroshi Ohnishi, Arina Ujihara, 他	内科(呼吸器)	Multiple Tracheal Bronchi and a Tracheal Lobe in the Middle Mediastinum	Am J Respir Crit Care Med. 2020 Jan 1;201(1):e1-e2.	Case report
14	Fumiya Ogasawara, Yu Nakatani, Kensuke Kojima	内科(血液)	Superior Vena Cava Lymphoma	Intern Med. 2020 May 1;59(9):1231.	Others
15	Takayoshi Hirota, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Clinical Profile of Thromboembolic Events in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy in a Regional Japanese Cohort - Results From Kochi RYOMA Study	Circ J. 2019 Jul 25;83(8):1747-1754.	Original Article
16	Yuichi Baba, Toru Kubo, Shigeo Yamanaka, 他	内科(老年病・循環器)	Reconsideration of the cut-off value of angiotensin-converting enzyme for screening of sarcoidosis in Japanese patients	J Cardiol. 2019 Dec;74(6):507-511.	Original Article
17	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yasuteru Nakashima, 他	内科(老年病・循環器)	Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and 99m Tc-pyrophosphate scintigraphy	J Cardiol. 2020 Jan;75(1):12-19.	Original Article
18	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yasuteru Nakashima, 他	内科(老年病・循環器)	A case report of an uncommon presentation of 99m technetium pyrophosphate scintigraphy in transthyretin cardiac amyloidosis: A potential diagnostic pitfall, pseudo-positive or pseudo-negative?	J Cardiol Cases. 2019 Oct 8;21(2):50-53.	Case report
19	Nao Okamoto, Toru Kubo, Yasuteru Nakashima, 他	内科(老年病・循環器)	Beneficial Effect of Pimobendan for Severe Heart Failure Due to Transthyretin Cardiac Amyloidosis	Intern Med. 2020 Feb 1;59(3):339-343.	Original Article
20	Wataru Tamaki, Etsuko Tsuda, Syuji Hashimoto, 他	小児科	Magnetocardiographic recognition of abnormal depolarization and repolarization in patients with coronary artery lesions caused by Kawasaki disease	Heart Vessels. 2019 Oct;34(10):1571-1579.	Original Article
21	Tetsuo Kashibayashi, Ryuichi Takahashi, Jun Fujita, 他	精神科	Correlation between regional brain volume and olfactory function in very mild amnesic patients	J Neurol Sci. 2020 Apr 15;411:116686.	Original Article
22	Yosuke Suga, Keiichiro Yoshimoto, Shusuke Numata, 他	精神科	Structural variation in the glycogen synthase kinase 3 β and brain-derived neurotrophic factor genes in Japanese patients with bipolar disorders	Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Mar;40(1):46-51.	Original Article

小計12件

23	Yumiko Hashida, Tomonori Higuchi, Moe Tanaka, 他	皮膚科	Prevalence and Viral Loads of Cutaneous Human Polyomaviruses in the Skin of Patients With Chronic Inflammatory Skin Diseases	J Infect Dis. 2019 Apr 19;219(10):1564-1573.	Original Article
24	Kentaro Ohko, Kimiko Nakajima, Sayo Kataoka, 他	皮膚科	IL-36 Signaling Is Essential for Psoriatic Inflammation through the Augmentation of Innate Immune Responses	J Invest Dermatol. 2019 Jun;139(6):1400-1404.	Original Article
25	Sari Okazaki, Risa Osawa, Hideki Nakajima, 他	皮膚科	Favorable response to apremilast in a patient with refractory psoriasis verrucosa	J Dermatol. 2019 Jun;46(6):544-547.	Case report
26	Y Shibata, S Serada, M Fujimoto, 他	皮膚科	Myosin heavy chain, a novel allergen for fish allergy in patients with atopic dermatitis	Br J Dermatol. 2019 Dec;181(6):1322-1324.	Original Article
27	Kentaro Ohko, Kimiko Nakajima, Hideki Nakajima, 他	皮膚科	Skin and hair abnormalities of Cantu syndrome: A congenital hypertrichosis due to a genetic alteration mimicking the pharmacological effect of minoxidil	J Dermatol. 2020 Mar;47(3):306-310.	Letter
28	Natsuki Maeda-Aoyama, Kazu Hamada-Ode, Yoshinori Taniguchi, 他	皮膚科	Dyskeratotic cells in persistent pruritic skin lesions as a prognostic factor in adult-onset Still disease	Medicine (Baltimore). 2020 Feb;99(6):e19051.	Case report
29	Kimiko Nakajima, Mi-Gi Lee, Bum-Ho Bin, 他	皮膚科	Possible involvement of zinc transporter ZIP10 in atopic dermatitis	J Dermatol. 2020 Feb;47(2):e51-e53.	Letter
30	Kenji Kajiwara, Rika Yoshimatsu, Miki Nishimori, 他	放射線科	Efficacy of arterial infusion of iodized oil on CT-guided cryoablation for renal cell carcinoma	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Mar 5;1-7.	Original Article
31	Takuji Yamagami, Rika Yoshimatsu, Kenji Kajiwara, 他	放射線科	Protection from injury of organs adjacent to a renal tumor during percutaneous cryoablation	Int J Urol. 2019 Aug;26(8):785-790.	Review
32	Toyokazu Oki, Takeki Sugimoto, Maho Ogawa, 他	外科(一)	Evaluation of Follow-up Examinations Using Ultrasonography for Patients With Thyroid Nodules Initially Diagnosed as Benign	Anticancer Res. 2019 Apr;39(4):2061-2067.	Case report
33	Jun Iwabu, Tsutomu Namikawa, Hiroyuki Kitagawa, 他	外科(一)	Sigmoid colon perforation in the patient with granulomatosis with polyangiitis	Surg Case Rep. 2019 May 30;5(1):87.	Case report
34	Masaki Yamamoto, Hitoshi Ninomiya, Kohei Miyashita, 他	外科(一)	Influence of residual coronary flow on bypass graft flow for graft assessment using near-infrared fluorescence angiography	Surg Today. 2020 Jan;50(1):76-83.	Case report

小計12件

35	Taku Nakayama, Tatsuya Kobayashi, Otsuka Shimpei, 他	外科(一)	Photoirradiation after aminolevulinic acid treatment suppresses cancer cell proliferation through the HO-1/p21 pathway	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2019 Dec;28:10-17.	Case report
36	Jun Iwabu, Satoshi Yamashita, Hideyuki Takeshima, 他	外科(一)	FGF5 methylation is a sensitivity marker of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy	Sci Rep. 2019 Sep 16;9(1):13347.	Original Article
37	Tsutomu Namikawa, Nobuko Ishida, Keiichiro Yokota, 他	外科(一)	Early gastric cancer with multiple submucosal heterotopic gastric gland: A case report	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):583-586.	Case report
38	Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Masaya Munekage, 他	外科(一)	Evolution of photodynamic medicine based on fluorescence image-guided diagnosis using indocyanine green and 5-aminolevulinic acid	Surg Today. 2020 Aug;50(8):821-831.	Review
39	Nobuhisa Tanioka, Takehiro Okabayashi, Kenta Sui, 他	外科(一)	Clinicopathologic Features and Surgical Outcomes of Neuroendocrine Carcinoma of the Gallbladder	Surg Technol Int. 2019 May 15;34:101-106.	Original Article
40	Hikomichi Maeda, Shoichi Hazama, Shigeyoshi Iwamoto, 他	外科(一)	Association between polymorphisms in EGFR and tumor response during cetuximab and oxaliplatin-based combination therapy in metastatic colorectal cancer: Analysis of data from two clinical trials	Oncol Lett. 2019 Nov;18(5):4555-4562.	Original Article
41	Hiroyuki Kitagawa, Jun Iwabu, Keiichiro Yokota, 他	外科(一)	Intraoperative Neurological Monitoring During Neck Dissection for Esophageal Cancer With Aberrant Subclavian Artery	Anticancer Res. 2019 Jun;39(6):3203-3205.	Case report
42	Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, 他	外科(一)	Bowel obstruction associated with a feeding jejunostomy and its association to weight loss after thoracoscopic esophagectomy	BMC Gastroenterol 2019 Jun 25;19(1):104.	Original Article
43	Kazumasa Orihashi, Toshihiko Ueda	外科(二)	"De-airing" in open heart surgery: report from the CVSAP nation-wide survey and literature review	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Oct;67(10):823-834.	Review
44	Nobuo Kondo, Nobuyuki Hirose, Kazuki Kihara, 他	外科(二)	Cerebral perfusion in debranching thoracic endovascular aortic repair monitored by orbital ultrasonography	J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Sep;158(3):e81-e83.	Case report
45	Kazumasa Orihashi	外科(二)	The history of transesophageal echocardiography: the role of inspiration, innovation, and applications	J Anesth. 2020 Feb;34(1):86-94.	Review
46	Takashi Anayama, Kentaro Hirohashi, Hironobu Okada, 他	呼吸器外科	[Indocyanine Green(ICG) Fluorescence Imaging to Visualize Intersegmental Plane]	Kyobu Geka. 2019 Jul;72(7):523-527.	Original Article

小計12件

47	Takashi Anayama, Mai Taguchi, Takehiro Tatenuma, 他	呼吸器外科	In-vitro proliferation assay with recycled ascitic cancer cells in malignant pleural mesothelioma: A case report	World J Clin Cases. 2019 Dec 6;7(23):4036-4043.	Case report
48	Takashi Anayama, Kentaro Hirohashi, Hironobu Okada, 他	呼吸器外科	[Indocyanine Green(ICG) Fluorescence Imaging to Visualize Intersegmental Plane]	Kyobu Geka. 2019 Jul;72(7):523-527.	Original Article
49	Tsuyoshi Koyama, Takashi Kawano, Hideki Iwata, 他	麻酔科	Acute postoperative pain exacerbates neuroinflammation and related delirium-like cognitive dysfunction in rats	J Anesth. 2019 Jun;33(3):482-486.	Original Article
50	Atsushi Nishigaki, Takashi Kawano, Hideki Iwata, 他	麻酔科	Acute and long-term effects of haloperidol on surgery-induced neuroinflammation and cognitive deficits in aged rats	J Anesth. 2019 Jun;33(3):416-425.	Original Article
51	Marie Shigematsu- Locatelli, Takashi Kawano, Tsuyoshi Koyama, 他	麻酔科	Therapeutic experience with tramadol for opioid dependence in a patient with chronic low back pain: a case report	JA Clin Rep. 2019 Oct 30;5(1):68.	Case report
52	Toru Morimoto, Masashi Izumi, Hiroaki Ueba, 他	整形外科	Humeral Avulsion of the Lateral Collateral Ligament of the Elbow Concomitant with the Medial Epicondyle Fracture of a Child with General Joint Laxity	Case Rep Orthop. 2019 Apr 4;2019:1965343.	Case report
53	Nobuaki Tadokoro, Katsuhito Kiyasu, Yusuke Kasai, 他	整形外科	Discrepancy between functional recovery and cutaneous silent period change in surgically treated degenerative cervical myelopathy: a prospective pilot study	Spinal Cord. 2019 Dec;57(12):1076-1083.	Original Article
54	Koji Aso, Masashi Izumi, Natsuki Sugimura, 他	整形外科	Additional benefit of local infiltration of analgesia to femoral nerve block in total knee arthroplasty: double-blind randomized control study	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 Jul;27(7):2368-2374.	Original Article
55	Dai Oishi, Masashi Izumi, Hiroaki Ueba, 他	リハビリテーション部	Splinting for the carpometacarpal joint relieves experimental basal thumb pain and loss of pinch strength	Eur J Pain. 2019 Aug;23(7):1351-1357.	Original Article
56	Hirofumi Namba, Motohiro Kawasaki, Masashi Izumi 1, 他	整形外科	Effects of MRgFUS Treatment on Musculoskeletal Pain: Comparison between Bone Metastasis and Chronic Knee/Lumbar Osteoarthritis	Pain Res Manag. 2019 Sep 2;2019:4867904.	Original Article
57	Shuhei Mizobuchi, Nobuaki Tadokoro, Shogo Takaya, 他	整形外科	Nontraumatic Spondylolisthesis of the Axis with Cervical Kyphosis	Case Rep Orthop. 2020 Mar 19;2020:6859474.	Case report
58	Ken Fukuda, Waka Ishida, Tatsuma Kishimoto, 他	眼科	Development of conjunctivitis with a conjunctival proliferative lesion in a patient treated with dupilumab for atopic dermatitis	Allergol Int. 2019 Jul;68(3):383-384.	Case report

小計12件

59	Yusaku Miura, Ken Fukuda, Yoshinori Taniguchi, 他	眼科	Recurrent Optic Perineuritis as the First Manifestation of Relapsing Polychondritis	J Neuroophthalmol. 2019 Dec;39(4):513-514.	Case report
60	Tatsuma Kishimoto, Waka Ishida, Ken Fukuda, 他	眼科	Therapeutic Effects of Intravitreously Administered Bacteriophage in a Mouse Model of Endophthalmitis Caused by Vancomycin-Sensitive or -Resistant Enterococcus faecalis	Antimicrob Agents Chemother. 2019 Oct 22;63(11):e01088-19.	Others
61	Ken Fukuda, Tatsuma Kishimoto, Atsuki Fukushima	眼科	Miscellaneous Ocular Symptoms in a Case of Relapsing Polychondritis	Ocul Immunol Inflamm. 2019 Oct 30;1-3.	Others
62	Ken Fukuda, Nobuyuki Ebihara, Tatsuma Kishimoto, 他	眼科	Amelioration of conjunctival giant papillae by dupilumab in patients with atopic keratoconjunctivitis	J Allergy Clin Immunol Pract. 2020 Mar;8(3):1152-1155.	Others
63	Toshio Yawata, Youichiro Higashi, Yu Kawanishi, 他	脳神経外科	CD146 is highly expressed in glioma stem cells and acts as a cell cycle regulator	J Neurooncol. 2019 Aug;144(1):21-32	Original Article
64	Hitoshi Fukuda, Hitoshi Ninomiya, Yusuke Ueba, 他	脳神経外科	Impact of temperature decline from the previous day as a trigger of spontaneous subarachnoid hemorrhage: case- crossover study of prefectural stroke database	J Neurosurg. 2019 Jul 5;1-9.	Original Article
65	Hideo Fukuhara, Atsushi Kurabayashi, Mutsuo Furihata, 他	泌尿器科	5-aminolevulinic acid-mediated photodynamic diagnosis using fluorescence ureterorenoscopy for urinary upper tract urothelial carcinoma -Preliminary prospective single centre trial-	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2020 Mar;29:101617.	Original Article
66	Hideo Fukuhara	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Fukuhara to Intraoperative hypotension caused by oral administration of 5-aminolevulinic acid for photodynamic diagnosis in patients with bladder cancer	Int J Urol. 2019 Nov;26(11):1069.	Others
67	Eri Sasabe, Ayumi Tomomura, Naoya Kitamura, 他	歯科口腔外科	Metal nanoparticles-induced activation of NLRP3 inflammasome in human oral keratinocytes is a possible mechanism of oral lichenoid lesions	Toxicol In Vitro. 2020 Feb;62:104663.	Original Article
68	Narika Yanagisawa, Seisho Takeuchi, Miho Nakamura, 他	薬剤部	Large abscess formed in the abdominal wall by Mycobacterium avium complex: A case of unmasking immune reconstitution inflammatory syndrome	IDCases. 2019 Jul 27;18:e00609.	Case report
69	Tomoaki Ishida, Michiro Iizuka, Yanglan Ou, 他	薬剤部	Juzentaihoto Suppresses Muscle Atrophy in Streptozotocin-Induced Diabetic Mice	Biol Pharm Bull. 2019;42(7):1128-1133.	Original Article
70	T Ishida, S Morisawa, M Iizuka, 他	薬剤部	Juzentaihoto extract suppresses adipocyte hypertrophy and improves hyperglycemia in KKAY mice	Pharmazie. 2020 May 1;75(5):191- 194.	Original Article

小計12件

71	Masataka Nomura, Yasuyo Morita, Ayano Kakiuchi, 他	薬剤部	The association between chemotherapy-induced febrile neutropenia and breast cancer subtype in Japanese patients	Int J Clin Pharm. 2020 Feb;42(1):7-10.	Original Article
72	Nobuyasu Baba, Feifei Wang, Michiro Iizuka, 他	薬剤部	Induction of regional chemokine expression in response to human umbilical cord blood cell infusion in the neonatal mouse ischemia-reperfusion brain injury model	PLoS One. 2019 Sep 4;14(9):e0221111.	Original Article
73	Kenji Yorita, Yuki Togashi, Hideyuki Nakagawa, 他	病理診断部	Vocal cord inflammatory myofibroblastic tumor with mucoid deposits harboring TIMP3-ALK fusion: A potential diagnostic pitfall	Pathol Int. 2019 Jun;69(6):366-371.	Case report

小計3件
合計73件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存 学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データ マネージメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・ NASHに関するベザフィブレート治療
- ・ 原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法
- ・ 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法
- ・ 経カテーテル的肝動脈化学塞栓術
- ・ 部分的脾動脈塞栓術
- ・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的閉塞術
- ・ バルーン閉塞下肝動脈化学塞栓術
- ・ 消化管悪性腫瘍に対する拡大内視鏡診断
- ・ 消化管の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術
- ・ 消化管出血に対する内視鏡的止血術
- ・ 内視鏡的胆道ドレナージ
- ・ 内視鏡的膵管ドレナージ
- ・ 経皮的胆道(胆嚢、胆管)ドレナージ
- ・ 超音波内視鏡下吸引針生検
- ・ 難治性膠原病に対する血液浄化療法
- ・ 難治性膠原病に対する免疫グロブリン療法
- ・ 難治性膠原病に対する生物製剤療法
- ・ 甲状腺穿刺細胞診
- ・ 内分泌負荷試験の実施
- ・ 経皮的腎生検
- ・ 持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入
- ・ 持続血糖測定装置 (CGMS)の実施
- ・ 超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査
- ・ 超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査
- ・ 気管支鏡検査のためのナビゲーション作成
- ・ 非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・ 悪性胸膜中皮腫に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・ 難治性気管支喘息に対する気管支サーモプラスチック療法
- ・ 難治性気管支喘息に対する生物学的製剤治療
- ・ 同種造血幹細胞移植
- ・ 自家末梢血幹細胞移植
- ・ DICの診断・治療
- ・ 冠動脈造影、感度婦脈インターベンション
- ・ デバイス植え込み、アブレーション治療
- ・ 心エコー検査
- ・ 脳神経内科専門医研修
- ・ 小児腎生検
- ・ 小児心臓カテーテル検査
- ・ 食物経口負荷試験
- ・ アトピー性皮膚炎スキンケア
- ・ 気管支喘息運動負荷試験
- ・ 修正型電気けいれん療法実習
- ・ 悪性黒色腫に対するエンコラフェニブ・ビニメチニブ併用療法
- ・ アトピー性皮膚炎に対するデュピルルマブ療法
- ・ 第7回高知イメージカンファレンス
- ・ 第3回高知最新放射線診療ミーティング
- ・ 第1回高知最新放射線診療研究会

- ・高知cutting edge radiology セミナー
- ・第1回高知最新イメージング研究会
- ・第4回高知最新放射線診療ミーティング
- ・胃癌に対する腹腔鏡下手術
- ・食道癌に対する胸腔鏡下手術
- ・大腸癌に対する腹腔鏡下手術
- ・原発性肝癌に対する広範囲肝切除
- ・膵癌に対する膵頭十二指腸切除
- ・乳癌に対するセンチネルリンパ節生検
- ・講演「これからの麻酔科をどうするか 一人一人の力で最高のチームを作る」
- ・講演「日本の麻酔科学研究の現状と国際誌への論文出版の為の戦略」
- ・講演「小児麻酔の最前線」
- ・講演「産科麻酔の最近の話題」
- ・講演「医師の働き方改革」
- ・講演「チーム医療で取り組む術後せん妄対策」
- ・婦人科骨盤腔内視鏡下手術
- ・閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法
- ・体外受精
- ・子宮内膜症の免疫学的診断
- ・内視鏡講習会
- ・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリー固定
- ・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術
- ・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術
- ・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術
- ・膝靭帯損傷に対する関節鏡下靭帯再建術
- ・肩腱板断裂に対する関節鏡下腱板修復術
- ・ナビゲーション人工関節置換術
- ・腰椎分離症に対する最小侵襲手術
- ・リバーズ型人工肩関節置換術
- ・自家培養軟骨細胞移植術
- ・涙道内視鏡手術
- ・加齢黄斑変性に対する光線力学的療法
- ・眼内内視鏡を用いた硝子体手術
- ・緑内障インプラント手術
- ・耳鼻咽喉科専門研修
- ・頭頸部がん専門研修
- ・気管食道科専門研修
- ・遺伝性腎癌の遺伝子診断
- ・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法
- ・前立腺癌の高線量率組織内照射療法
- ・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術
- ・膀胱癌の光力学的診断

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	803人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
内田 一茂	内科（消化器）	教授	27年	
寺田 典生	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	35年	
藤本 新平	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	28年	
横山 彰仁	内科（呼吸器）	教授	36年	
小島 研介	内科（血液）	教授	28年	
北岡 裕章	内科（老年病・循環器）	教授	31年	
古谷 博和	内科（脳神経）	教授	37年	
藤枝 幹也	小児科	教授	35年	
數井 裕光	精神科	教授	30年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	36年	
山上 卓士	放射線科	教授	28年	
花崎 和弘	外科（一）	教授	35年	
河野 崇	麻酔科	准教授	21年	
前田 長正	産科婦人科	教授	34年	
池内 昌彦	整形外科	教授	24年	
福田 憲	眼科	准教授	23年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	36年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	30年	
井上 啓史	泌尿器科	教授	30年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状		
管理責任者氏名	病院長 執印 太郎			
管理担当者氏名	総務企画課長	西田 浩敏	医療安全管理部長	藤枝 幹也
	医事課長	和氣 明彦	感染管理部長	武内 世生
	総務課長	川崎 美保	臨床工学部長	上羽 哲也
	薬剤部長	宮村 充彦	診療情報管理室長	上羽 哲也
	放射線部長	山上 卓士		

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	医事課
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	(フィルムレス化済み)
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課
		高度の医療の研修の実績	総務企画課
		閲覧実績	総務企画課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務企画課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	総務企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 沖 淳一	
閲覧担当者氏名	総務企画課長 西田 浩敏	
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室	
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から） ・医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 ・医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針 ・医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・患者や第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・患者からの相談への対応に関する基本方針 ・その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・設置の有無（有・無）</p> <p>・開催状況：年12回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全上の問題が発生した場合における原因究明のため調査及び分析を行う。 (2) 医療安全管理部の業務に関することを審議する。 (3) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関することを審議する。 (4) 医療事故防止マニュアルに関することを審議する。 (5) 医療安全に資する研修の企画・立案に関することを審議する。 (6) 医療に係る安全管理のための指針に関することを審議する。 (7) その他医療安全管理に関することを審議する。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年30回
<p>・研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医療安全の基本」（同内容 12回） ・「医薬品安全管理に関する情報提供」（同内容 2回） ・「MRIの安全管理に関すること」（同内容 2回） ・「医療機器の安全使用」（同内容 3回） ・「2018年度の病棟採り直し件数の分析と採血時の注意点」（同内容 3回） ・「知っておきたい新しい診療情報の取り組み」（同内容 3回） ・「病院における働き方改革を進めるための3つのポイント ・「がん薬物療法における曝露対策、放射線治療でしばしば見受けられる早期有害事象とその対応」 ・「医療ガス講習会」（同内容 3回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署において複数診療科や多職種でM&Mカンファレンスやデスカンファレンスを開催し、実施した医療行為や経過について振り返りを行っている。 ・各部署リスクマネージャーが問題点を分析し、改善策・影響度レベルを含め報告を行う。事例内容によっては分析方法の演習も実施し、リスクマネージャーの分析力向上を図る。 	

- ・医療安全管理部においては、各部署から報告のあったインシデントレポートの分析状況及び影響度レベルの妥当性を複数のメンバーによりチェックし、分析が不十分なものや関連会議での検討を要するものを抽出のうえ、専任リスクマネージャーが調査し、必要に応じて関連会議で検討する。
- ・検討については、主に医療安全管理委員会で検討するが、必要に応じてワーキンググループを設置して改善策を検討のうえ、リスクマネジメント担当者会議で検討する場合もある。また、更なる検討が必要と認められる事例は、院内医療問題調査委員会に諮る。
- ・院内には転倒・転落防止対策チームがあり、毎月定例会議を開催して各部署の毎月の発生件数と分析内容を会議で報告し、転倒・転落防止への取り組みを行っている。
- ・医療安全管理部のコアメンバーによるチームミーティングを週一回開催し、重要な事例や気になる事例についての問題点の分析を行っている。
- ・医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構（PMDA）に報告する。
- ・インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。
- ・病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。
- ・報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
- ・医療事故調査制度について、医療安全管理研修会を開催して病院職員へ周知を行っている。
- ・医療安全管理部において死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果（医療事故調査制度への該当の有無を含む）を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること 2. 感染予防に係る情報の収集に関すること 3. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること 4. 感染症発生時の措置に関すること 5. 院内職員の教育及び啓発に関すること 6. 消毒剤等の使用に関すること 7. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年23回
<p>・研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せん妄ケア・感染管理 合同webセミナー ・標準予防策 ・感染症診療の基本 ・抗菌薬・消毒薬の適正使用 ・細菌検査について ・周術期栄養療法セミナー「ERASプロトコルの基礎と応用」 ・周術期栄養療法セミナー「食道癌の周術期に求められるチーム医療」 ・AMR時代の抗菌薬適正使用 ～その抗菌薬本当に必要ですか～ ・感染性心内膜炎 ～疑わないと見逃す疾患～ ・入院中の発熱 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、MRSA、基質拡張型β-ラクターゼ産生菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、クロストリジウム・ディフィシル菌、インフルエンザ、ノロウイルス、結核菌などの検出状況を示している。
2. 感染管理部レポートは毎月1回作成し報告している。
 - ① MRSAサーベイランス：感染と保菌、院内発生と持込の発生状況
 - ② 速乾性手指消毒薬使用状況：入院患者1人あたりの1日使用回数
 - ③ 血液培養陽性例：コンタミネーションの有無、ショックの有無、14日後の予後など
 - ④ 抗菌薬使用状況：抗MRSA薬とカルバペネム系抗菌薬のAUD、周術期予防的抗菌薬の使用状況など
3. これらの情報は、ベースラインを把握し、状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
4. 感染管理部に報告が必要な病原体として、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・帯状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
5. 診療科、病棟、外来、検査部から専任看護師に報告があれば、状況に応じて下記対応を行う
 - ① 専任看護師は部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、感染管理部合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 随時専任看護師から感染対策委員会委員長に報告する
 - ⑥ 各診療科、病棟から所属長に報告する
 - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
6. 週2回、感染対策ラウンド
7. 毎日、抗菌薬適正使用支援カンファレンス

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬・向精神薬の使い方（1回、対象：研修医） 2. 2019年度 医療安全管理研修会 「医薬品安全管理に関すること」（2回、対象：全職員） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成（有・無）</p> <p>・手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 4. 患者に対する与薬や薬剤管理指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項 6. 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 7. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 8. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に関する事項 9. 放射性医薬品の取扱いに関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</p> <p>・未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 急性脳炎・脳症（抗NMDA受容体抗体陽性）に対するリツキシマブの適応外使用、 細胞肺癌に対するパクリタキセル（nab-PTX）の適応外使用 等 全33件</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>（情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①添付文書情報（医療用医薬品） ②添付文書情報（一般用医薬品） ③注射剤の配合変化 ④緊急安全性情報（イエローレター） ⑤安全性速報（ブルーレター） ⑥医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行） ⑦薬品安全対策通知 ⑧使用上の注意の改訂情報 ⑨厚生労働省発表資料（医薬品等関連） ⑩DSU（医薬品安全対策情報） ⑪急性中毒情報ファイル ⑫重篤副作用疾患別対応マニュアル ⑬妊婦授乳婦と薬 ⑭回収情報（医薬品）等を参考とする。 <p>（情報の周知方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview） ・院内通知文書 ・DIニュースの発行 ・各種勉強会、講習会等 ・病棟担当薬剤師により各病棟、診療科のカンファレンス等にて連絡を行う。 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年118回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員、新人看護師、研修医等を対象に、医療機器の安全使用において技術の習得が必要と考えられる機器について、適正な安全使用に関する研修、インシデント対策等に関する研修、新規導入機器の仕様及び使用方法に関する研修等を実施。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検等を適切に実施できるよう、予め保守点検計画を立案し、医療機器管理システム上で予定を管理しながら定期点検、日常点検、修理等を実施している。なお、定期点検の期間については、本院における機器の使用において、有効性及び安全性が担保される期間を機器毎に設定し実施している。(1ヶ月、4ヶ月、6ヶ月、1年) ・院内での実施が困難な機器点検・修理については、メーカーに外部委託し、実施している。 ・機器に関する情報については、機器管理システムの台帳にて、機器名、製造番号、点検・修理履歴、保守点検予定日等を機器毎にシステム管理している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器製造販売業者、関連学会、医薬品医療機器総合機構等から収集した安全情報を病院の電子掲示板を用いて、どのPC端末からでも閲覧できるように整備し、情報の周知を図っている。また、緊急を要する内容については、臨床工学技士等が直接関係部署等に出向き、現場スタッフに説明を行い迅速な情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器のインシデント報告に対して、その安全対策、対応策等を検討し、研修会やリスクマネジメントニュース等で周知を実施している。 ・院内で確認された医療機器の不具合については、医療安全管理担当者等に報告を行い、必要に応じて、医薬品医療機器総合機構に医療機器安全情報として報告を行っている。 ・未承認機器及び適応外使用を行う機器については、医療安全管理部 医療機器安全管理部門にて、院内での使用に関して安全性及び有効性が担保されていることを評価した上で、臨床使用するようになっている。 ・スタッフの研修用資料として、機器の安全使用に関する動画を作成し、タブレット端末にて貸し出し等を行なっている 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 副病院長 (医療安全管理担当) を医療安全管理責任者として配置し、その統括の下で、医療安全管理部が中心となり病院全体で組織的・継続的に安全管理に取り組んでいる。 ・ 副病院長 (医療安全管理担当) 及び医療安全管理委員会委員長は、医療安全管理部長をもって充てることとし、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の構成員として医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を配置している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成。 ・ 医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施。 ・ 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施。 ・ 医薬品の安全使用のため必要となる情報の収集。 ・ 医薬品の安全確保を目的とした改善のための事例評価と方策の実施。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付文書情報 (医療用医薬品)、添付文書情報 (一般用医薬品)、注射剤の配合変化、緊急安全性情報 (イエローレター)、安全性速報 (ブルーレター)、医薬品・医療機器等安全性情報 (厚生労働省発行)、薬品安全対策通知、使用上の注意の改訂情報、厚生労働省発表資料 (医薬品等関連)、DSU (医薬品安全対策情報)、急性中毒情報ファイル、重篤副作用疾患別対応マニュアル、妊婦授乳婦と薬、回収情報 (医薬品) 等を参考に情報収集を行う。 ・ 病院運営委員会等の各種委員会での報告、全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照 (MDview)、院内通知文書、DI ニュースの発行、各種勉強会、講習会等、病棟担当薬剤師より各病棟、診療科のカンファレンス等で情報の周知を行う。 ・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無 ・ 担当者の所属・職種：(所属：薬剤部、職種 薬剤師) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・ 無 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明書・同意書監査部会を設置し、新規に作成された説明同意書の標準説明内容の監査を実施している。また、医療安全のカルテレビューやPeer review (同僚間監査)、退院時記録監査等で電子カルテから発見・報告され、監査部会メンバーより要改訂と判断された説明書についても、7つの確認項目が記載されているかを基本として「決められた事項が網羅されているか」「内容に妥当性があるか」「患者が理解できる言葉で記載されているか」を中心に確認し、見直しが必要な箇所などをわかりやすく記載した改訂依頼票を作成し、該当部署のIC責任者に改訂依頼を実施している。 インフォームド・コンセントに関する指針(第3版) インフォームド・コンセント実施マニュアル(第3版) 説明書・同意書の必要な具体的項目一覧 	

附記：患者署名の必要な文書に患者が署名できない場合等の取扱いについて
説明書同意書監査手順

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○毎月、退院患者の約1割の退院サマリについて、同僚間監査を実施し、監査結果を各診療科に報告することにより記載内容の向上を促している。また、過去の監査結果より各診療科で改善すべき目標を立てるよう指導し、目標の改善率をあげる取り組みを行っており、改善結果を報告している。</p> <p>○略語の多用化が進む中で、略語を入力すると日本語表記が登録される仕組みを導入して、入力簡素化と診療録の記録内容が多職種で理解しやすい環境を構築できるようATOKの略語辞書ファイルの作成し、実装した。</p> <p>○退院時記録監査を実施し、入院診療計画書、手術記録とその説明同意書、IC記録等について確認し未完成の場合は、作成依頼を実施している。また、同意書や計画書等の署名の確認と保管の必要な書類がスキャンされているかを確認し、未完成の場合は、該当文書の検索と必要に応じて、カルテ記載による補完を依頼している。</p> <p>○説明書同意書監査部会と連携し難型説明書の説明内容の監査を行っている。説明内容が不十分な場合は、その監査内容とともに改定依頼を行い、作成診療科により改定が実施されている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（13）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>（1）安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 （2）重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 （3）重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 （4）医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 （5）改善策を立案すること。 （6）改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 （7）安全管理に関する教育・研修に関すること。 （8）安全管理に関する連絡調整に関すること。 （9）高知大学医学部附属病院医療安全管理委員会の事務に関すること。 （10）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 （11）未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。 （12）その他安全管理に関すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>・ 医療安全管理部コアメンバーによるチームミーティングを週に1回開催し、各部署から報告のあったインシデント事例に関するモニタリングを行っている。 ・ 死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果（医療事故調査制度への該当の有無を含む）を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。 ・ 医療安全管理研修会におけるアンケート調査および研修受講後の小テスト実施により医療安全に関する意識の向上を図るとともに、職員の医療安全の認識についてモニタリングを行っている。また、院内ラウンドの際に確認している。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に新規医療技術安全管理部門を置き、院内における高難度新規医療技術（本院で実施したことのない医療技術を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうかを確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・高難度新規医療技術を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（33件）、及び許可件数（32件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に医薬品安全管理部門及び医療機器安全管理部門を置き、院内における未承認・適応外の医薬品及び医療機器（医療材料を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうかを確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・未承認・適応外の医薬品及び医療機器を用いた医療を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年184件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年65件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ・報告のあったインシデント及びオカレンスの分析及び影響度レベルの判定に関することを審議する。
- ・判定した影響度レベルが3b以上のものについて、院内医療問題調査委員会の要否に関することを審議する。
- ・インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関することを審議する。
- ・デスクカンファレンス報告書、オカレンス報告及びM&Mカンファレンス報告書の提出状況を確認する

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：旭川医科大学病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：福島県立医科大学附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

- ・オカレンス等の重大案件については、院内医療問題調査委員会に外部有識者を委員として委嘱し、外部主導型の審議を積極的に導入している。
- ・インフォームド・コンセント実施マニュアルにおける同席者の基準に高難度新規医療技術や未承認新規医薬品等を追加し、看護師の同席率向上を図っている。
- ・「高難度新規医療技術並びに未承認・適応外の医薬品及び医療機器を用いた医療の実施標準手順書を改訂し、医薬品の適応外使用に係る定期的な報告・確認の頻度を明記した。また、診療科における実施体制に大きな変更があった場合の確認やその確認手順等の報告に関する事項を追記した。
- ・新規申請された高難度新規医療技術を、担当部門の審査だけでなく高難度新規医療技術審査委員会の意見を踏まえて実施の適否を決定するための基準を検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

平成15年4月1日に「高知医科大学医学部附属病院患者相談窓口取扱要領」を制定するとともに、病院玄関インフォメーションに患者相談コーナーを設けた。その後、平成15年10月1日に旧高知大学との統合及び平成16年4月1日の国立大学の法人化に伴う改廃を経て、現在に至る。相談コーナーに寄せられた事由に対して必要に応じて看護師、専任リスクマネージャー、医療ソーシャルワーカー、医学部・病院事務部事務職員が単独あるいは複数で対応している。また、相談コーナー以外でも電話、病院ホームページ、投書箱（院内14箇所設置）に寄せられた相談等にも対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・「医薬品安全管理に関する情報提供」
- ・知っておきたい新しい診療情報の取り組み」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・ 管理者
2019.10.11 2019年度特定機能病院管理者研修
- ・ 医療安全管理責任者
2020.1.7 2019年度特定機能病院管理者研修
- ・ 医薬品安全管理責任者
2019.10.11 2019年度特定機能病院管理者研修
- ・ 医療機器安全管理責任者
2019.12.16 2019年度特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・基準の主な内容

学識が優れ、教育研究、診療及び病院経営に関する識見を有する者で次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

- (1) 医学部専任担当の教授又は教授予定者（国立大学法人高知大学職員就業規則の適用を受ける教授若しくは教授予定者又は国立大学法人高知大学特任職員就業規則の適用を受ける特任教授若しくは特任教授予定者に限る。）であって、2年の任期を務めることが可能な者
- (2) 医師免許を有する者
- (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者
- (4) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者

・基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）

・公表の方法

- ・大学HP

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学部附属病院HP 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
辻田 宏	理事(総務・財務・企画担当)	○	医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
本家 孝一	理事(研究・評価・医療担当)		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
北岡 裕章	医療学系長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定者	有・無
菅沼 成文	医学部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定者	有・無
多田 邦子	看護部長(副病院長)		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく医学部附属病院から選出	有・無
山中 茂雄	臨床検査技師長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づき医学部附属病院から選出	有・無
岡林 弘毅	高知県医師会長 県庁前クリニック 院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 医学・医療について豊富な経験と高い識見を有し、医療安全管理についても造詣が深い。	有・無
島田 安博	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター病院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 企業経営について、幅広く豊富な経験と高い識見を有し、高知県の経済事情や課題等にも精通している。	有・無
鎌倉 昭浩	高知県健康政策部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 高知県の医療に係る担当責任者として、保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有している。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院の運営方針に関すること。 (2) 病院の中期目標・中期計画に関すること。 (3) 病院の人事・予算に関すること。 (4) その他委員会が必要と認める事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員用掲示板にて周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・大学HP ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
執印 太郎	○	医師	病院長
内田 一茂		医師	診療科長
寺田 典生		医師	診療科長
横山 彰仁		医師	診療科長
小島 研介		医師	診療科長
北岡 裕章		医師	診療科長
古谷 博和		医師	診療科長
藤枝 幹也		医師	診療科長
數井 裕光		医師	診療科長
佐野 栄紀		医師	診療科長
山上 卓士		医師	診療科長
花崎 和弘		医師	診療科長
三浦 友二郎		医師	診療科長
穴山 貴嗣		医師	診療科長
吉田 行貴		医師	診療科長

河野 崇		医師	診療科長
前田 長正		医師	診療科長
池内 昌彦		医師	診療科長
福田 憲		医師	診療科長
兵頭 政光		医師	診療科長
上羽 哲也		医師	診療科長
井上 啓史		医師	診療科長
山本 哲也		歯科医師	診療科長
村上 一郎		医師	診療科長
西山 謹吾		医師	中央診療施設部長
瀬尾 宏美		医師	中央診療施設部長
小林 道也		医師	中央診療施設部長
杉本 健樹		医師	中央診療施設部長
武政 龍一		医師	中央診療施設部長
仲 哲治		医師	中央診療施設部長
奥原 義保		教員	医学情報センター長
宮村 充彦		薬剤師	薬剤部長
多田 邦子		看護師	看護部長
北川 博之		医師	手術部副部長
永野 靖典		医師	リハビリテーション部副部長
耕崎 拓大		医師	内視鏡診療部副部長
沖 淳一		事務職	事務部長
菅沼 成文		医師	医学部長
藤本 新平		医師	教授
阿波谷 敏英		医師	寄附講座教授
大畠 雅之		医師	特任教授
徳弘 慎治		臨床検査技師	技師長
伊東 賢二		診療放射線技師	技師長
村上 武		臨床工学技士	技士長
細田 里南		理学療法士	技士長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
 - ・ 大学HP
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 診療科長などの病院の役職者を任命し、また解任することができる。
 - ・ 附属病院の予算責任者として、附属病院の予算の執行について、権限と責任を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長4名：各々、総務、医療安全管理、病院実務、地域医療連携を担当
 - ・ 病院機能強化戦略推進室：医学部附属病院における医療及びサービスの質向上や病院機能強化のための戦略・施策の立案及び院内ラウンド等の内部チェックの実施を通じ、医学部附属病院のクオリティマネジメント及び病院機能強化に資することを目的とする。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 経営分析室、地域医療支援室を設置

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査を行う。 ・ 学長又は病院長に対して、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：本院 HP に公表 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター施設長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・(無)	1
井上 正典	公益財団法人 高知県看護協会 事務長		医療を受ける者その他の 医療従事者以外の者	有・(無)	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	(有)・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - ・高知大学コンプライアンス通報相談窓口を設置している。

- ・専門部署の設置の有無（有・無）
- ・内部規程の整備の有無（有・無）
- ・内部規程の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法
 - ・病院HP

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・学長を議長とする経営協議会に医学部附属病院長が委員として参加し、附属病院の運営等に関して、委員から意見を聴く機会を設けている。 ・会議体の実施状況（年4回） <ul style="list-style-type: none"> ・会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年4回） ・会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・大学HP 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人高知大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
櫻井 克年	学長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
辻田 宏	理事		<input checked="" type="radio"/> 有・無
岩崎 貢三	理事		<input checked="" type="radio"/> 有・無
本家 孝一	理事		<input checked="" type="radio"/> 有・無
受田 浩之	理事		<input checked="" type="radio"/> 有・無
宮井 千恵	理事		<input checked="" type="radio"/> 有・無
執印 太郎	医学部附属病院長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
岩瀬 公一	国立研究開発法人科学技術振興機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
岡村 昭一	高知県		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
河合 雅司	(一社)人口減少対策総合研究所		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
川村 晶子	富士通株式会社西日本営業部四国支社		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
中澤 慎二	高知市		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
中島 和代	(株)なかじま企画事務所		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
野並 誠二	医療法人野並会高知病院		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
原 正紀	(株)クオリティ・オブ・ライフ		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
山崎 道生	(一社)高知県工業会		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 病院HPに掲載、部署リスクマネージャーを通して周知

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、令和2年7月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 *がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」、「緩和ケア」、「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。 *内視鏡診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。	